



街角雑記帳

Vol. 3

言葉というもの
弁護士 増村裕之 (鶴沼出身)

よくある問いのひとつに、「あなたが無人島で暮らすとしたら、何か一点持っていくとしたら何を持っていきますか」というものがある。私の知り合いに言わせると辞書以外にはないそうである。すなわち、辞書には無限の可能性があり、知識の宝庫なのだそうである。その人は英語が流暢に話せ、日常会話程度もおぼつかない私などは根本的に違うのだからだろうとも思っていたが、よくよく考えると必ずしもそうではなさそうである。

さて、弁護士という我々の職業も、その字のとおり、言葉により主張反論を行ない、依頼者の利益を代弁するものであり、共通の言葉を土俵としなければ

胸襟を開くというが、そこに共通

の言語なくしては胸襟も開くことはできない。対話なくして自己の主張を通そうと思つたら、実力を行使するしかないのである。

このようなことに思いを致すと、グローバルな視点で物事を考えざるを得ない時代にあつて、これからの若い人たちが世界で活躍するためには、まずは言葉であり、外国語、特に(善し悪しは別にして)世界の標準的な言語である英語を習得することは不可欠なことのようには思われる。無味乾燥と思われ辞書もこう考えると、すぐれた書物と同等、いやそれ以上のものかもしれない。

辞書には無限の可能性があり、知識の宝庫とは、けだし言い得て妙である。

新しい時代への胎動「市町村合併」

本庄由利一市七町によるまちづくり

日本には、現在(平成十五年四月一日)六百七十七市・千九百六十一町・五百五十二村の合計三千九百九十もの自治体が存在する。国では、明治二十一年に約七万あった町村制度を改め、時代の要請に適応した自治体規模を確立していくため、いわゆる「明治の大合併」「昭和の大合併」を経て、専ら行政事務の効率的な処理を基軸としたまちづくりを促進してきた。現在の「本庄市」においても石脇村と本庄町の合併から始まり、その後、昭和二十九年三月、周辺六村との合併により新市の誕生を見たところである。

昨今議論が伯仲している「市町村合併」は、これとは質を大きく異にし、平成十一年施行の地方分権一括法を契機に、「地方にできるものは地方へ」大きく権限を移



真剣な議論が交わされている合併協議会

譲し、真の地方自治の実現を目指すものである。本年一月十五日には、本庄市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町から構成される本庄由利一市七町合併協議会が設置され、新しいまちづくりの基本軸とビジョンを策定していくべく、地域から選出された四十一名の委員が、鋭意協議を重ねられているところである。

秀麗無比なる鳥海山、母なる川・子吉川、紺青の大海・日本海という大自然に恵まれた本庄由利地域は、豊富な水資源と天然資源、秋田県内の製造品出荷額約二十五%を占める電子機器器具製造業と銘柄米ササニシキ、あきたこまちを供給する食糧基地でもある。今正に、地域の英知とエネルギーを集しながら、新しい時代への胎動

を始めたふるさと本庄。そして、ふるさとの礎を築いた本城満茂公が、この地に入学して四百年という記念の年に、地域の新しい時代を力強く創造していく息吹を感じずにはられない。

「本庄よいとこ」浜辺のまちよ山の宝を船で出す」
(民謡 本庄追分)

ふるさと本庄は、初夏に向けて輝きを増している。

困りごと法律相談など
増村さんまで

〒100-0022 東京都新宿区1丁目15番12号
千寿ビル2階
御苑前法律事務所
弁護士 増村裕之
電話 03-3355-5961
FAX 03-3355-5963

本城満茂入部400年祭

ふるさと本庄は、魅力のイベントがとびっきり満載!

慶長7年(1602年)から慶長9年(1604年)頃に、本庄の礎を築いた本城満茂公が、現在の本庄市松ヶ崎・岩城町亀田にあった赤尾津城に入り、慶長18年(1613年)頃には、子吉郷本城村(現在の本庄公園)に居城を構えました。武都あった本城城は、現在の中堅町付近まで及ぶ広大な城構えでありました。

そして、今年平成15年は、満茂公の入部から数えて400年。各種イベントを揃えて、皆様のご帰郷をお待ちしております。



1市7町の基礎データ

市町名	人口(人)	面積(km ²)
本庄市	45,724	188.31
矢島町	6,246	123.63
岩城町	6,582	108.10
由利町	6,209	96.53
大内町	9,794	181.71
東由利町	4,860	150.17
西目町	6,615	38.06
鳥海町	6,813	322.53
計	92,843	1,209.04

※数値は平成12年国勢調査。

第15回 総会・懇親交流パーティーご案内

下記のとおり、第15回総会並びに懇親交流パーティーを開催します。ご家族、ご友人をお誘い合わせのうえ、皆様多数ご出席ください。お楽しみ抽選会では、ふるさと本庄の多彩な逸品をご用意いたしております。

日 時 11月23日(祝日) ふるさと本庄物産展併催
時 午前10時30分 総会・懇親交流パーティー 正午
会 場 目黒雅叙園『華つどい』東京都目黒区下目黒1-8-1 TEL 03-3491-4111
費 小一人様10,000円(小中学生5,000円)

〈アトラクション出演者大募集〉
※昨年に引き続き、参加型交流アトラクションとして、会員の皆さんによる「ふるさとカラオケ歌謡のど自慢」(申込み先着5名様まで)を予定しております。皆さん、錦秋の宴を大いにお楽しみください。
なお是非出演したい!という皆さんは、事務局までお問合せください。TEL 0184-24-6222

会費納入のお願い

平成15年度会費(二千元)の納入について、まだ未納になっている方は、最寄りの郵便局窓口にて、ご入金いただきたく思います。よろしくお願いたします。

なお、過年度未納の会費につきましても、早急に手続きをお願いいたします。

平成15年度 親睦ツアー 『江戸情緒満喫・隅田川屋形船周遊』

江戸開府400年の節目の年。江戸の経済、文化を繁栄させたのは、河や堀を活用して張り巡らされた、水上交通体系が整っていたことに起因していると言われております。

武家、町民を問わず、最も粋な文化が舟遊びであり、大衆に絶大な人気を博した屋形船は、江戸のシンボルでもあったようです。

水都でもある東京。その恵まれた隅田川が有するひととき美しい景観をたっぷりお楽しみください。皆様の参加をお待ちしております。

※詳細は、下記事務局までお問い合わせください。

期 日 平成15年9月実施予定
旅 行 先 隅田川周遊コース
お 問 合 せ 0184-24-6222 (本庄ふるさと会事務局)

本庄市史全12巻完結・普及版通史「本庄の歴史」大好評・絶賛発売中!

このたび、第13回目最終巻の配本となる普及版通史「本庄の歴史」が刊行されました。往時の本庄の城構えや町割り図など、カラフルな写真図をふんだんに掲載しております。ふるさと本庄のルーツを探る歴史書として、是非ご愛読ください。

編 別(主な内容)	頒 価
①史料編Ⅰ上(考古・城館・編年史料)	5,800円
②史料編Ⅰ下(記録・系譜・各家文書)	6,000円
③通史編Ⅰ(原始古代～最上氏時代)	5,000円
④史料編Ⅱ(系譜・分限帳・検地帳)	品 切
⑤史料編Ⅲ(藩政・城下町・村)	6,000円
⑥史料編Ⅳ(藩政後期～維新)	6,000円
⑦通史編Ⅱ(藩政時代)	6,000円
⑧史料編Ⅴ(明治期)	6,000円
⑨史料編Ⅵ(大正・昭和期)	6,000円
⑩通史編Ⅲ(近代～現代)	6,000円
⑪文化・民俗編	6,000円
⑫年表・索引編	4,000円
普及版通史『本庄の歴史』(1冊本)	3,000円

本庄市史

全12巻完結
『年表・索引編』(第12回配本)
4月10日発売開始

※お問い合わせ
本庄市市史編さん室(TEL0184-24-3572)

編集後記

本庄公園の桜がほのかに色付き始めた屋下がり、ふるさと会会員のすてきな女性やニコニコしながら事務局を訪問されました。と即座に「いやーっ。四十五年ぶりに本庄市民になったよ。」とのこと。

その笑顔の奥にある眼差しには、これまで首都圏にて活躍された時間と出会いのリフレインがしっかりと物語ついているように感じられました。夢の実現に費やした「時間のひだ」を胸に秘め、きつとふるさと本庄でも、すばらしい出会いにめぐり会われることと確信しております。山、川、海、水、空気、そして、ゆっくりと流れる「とき」。これらは、県外出身の県立大学生たちが感動したものです。一期生が今春卒業していきました。出会いと別れ、そしてまた出会い。人生の「二期一会」に感謝。